

小川八幡宮のご由緒



【由緒額】

當社の創立等確然たらず 應永八九年頃 天変多く旱天洪水地震等ありて五穀稔らず 庶民大いに苦しむ 當時 鴨井某なるものありて常に八幡の神を尊崇せりために此の苦難を免れ 村氏伝えて挙げて八幡宮を敬するに至れり 其后 数年を経て天下飢饉に餓死するものさえありしも此の村は其の難を免れたり 此に於て 山城國石清水より勸請社殿を建て氏神となす后 慶長四年五月二十九日に台風ありて宮殿甚損ず 狛犬も大破同五年三月 鴨井助右工門願主となりて修復同六年八月彩色す 同十八年松本伝兵衛尉寄進あり三月 氏子中 葺替 寛永十四年八月池田出羽守の命により八人來りて祈願初穂を献ず 明暦二年八月修理 延宝六年三月 群師 尾関弥五右工門尉代官 水野平六尉 建替の費を献す 池田綱正公の命によるものとあり同八月 修理を行う其間 社僧ありしも寛文年間廢せらる 明治六年拾月 村社 大正九年十月四日神饌幣帛料を献する 神社に指定される 昭和二十一年法規の定むる所により宗教法人となる 昭和六十一年八月九日夜不審火によりて幣殿 釣殿 拝殿 焼失し 氏子等の寄進により平成元年十月再建修理す



白神春次氏 寄進 隨身門に取付の額

これによって、八幡宮創立の経緯、石清水八幡宮（現京都府八幡市）から勸請したこと、さらに池田出羽守は最後の下津井城主の池田出羽守由成（赤穂浪士の石内蔵助の祖父）であることなどが理解されます。

應永八・九年頃：西暦1402年頃	……………	建立、現西暦年号2015年により613年前頃
慶長四年～十八年：西暦1600年～	……………	台風ありて宮殿損壊し修復、彩色、葺替する
寛永十四年：西暦1638年	……………	池田出羽守の命により祈願初穂を献ず
明暦二年：西暦1657年	……………	修理
延宝六年：西暦1679年	……………	建替
昭和六十一年：西暦1986年	……………	幣殿・釣殿・拝殿・焼失
平成元年：西暦1989年	……………	再建修理す

参拝手順

- 1 鳥居をくぐる前に服装の乱れを整えます。
- 2 鳥居をくぐる時は、神様が祭られている場所に入る際に、神様を敬う気持ちを表わすために軽く一礼します。これを「一揖（いちゆう）」と言います。参道を進むときは参道の中央を進んではいけません。参道の中央は「正中」といい、神様が通る道なので、我々が通る道ではありません。
- 3 境内の手水舎で、身を清めます。

手水舎（ちょうずや・ちょうずしゃ・てみずや・てみずしゃ）、
（舟形）参拝者が身を浄めるために手水を使う施設のこと。水盤舎（すいばんしゃ）とも呼ばれる。

〔手水舎で身を浄める方法〕

- (1) まず右手に柄杓（ひしゃく）を持ち、左手を洗い清めます。
 - (2) 柄杓を左手に持ち替えて右手を清めます。
 - (3) 再び持ち替えて柄杓を右手に持ち、左の手の平で水を受けて口をすすぎます。
 - (4) 左の手の平を清めます。
 - (5) 最後に柄杓を縦にして、自分が持った柄の部分に水を流し、元の位置にもどします。柄杓は伏せておきます。
- 4 拝殿の前で一礼する。
 - 5 鈴があれば力強く鳴らしましょう。神様に自分が来たことをこれで知らせるわけです。
 - 6 お賽銭を静かに入れる。
 - 7 二拝二拍手一拝をする。＊（拝－およそ90度の角度・礼－30～45度の角度）
 - 8 一般の参拝者は鳥居を出てから一礼をし、帰ります。
正式参拝（昇殿参拝）は向きを変えて一礼をして本殿を出ます。
以降は一般参拝と同じ。

拍手（はくしゅ、かしわで）また、開手（ひらて）ともいう。

鈴と同じように邪気を祓う意味や、神様を呼び出すためと言われます。

「かしわで」と言われることがあります。

両手を合わせ、左右に開いた後に再び合わせる行為を指す。通常、手を再び合わせる際に音を出す。音を出す理由は、神への感謝や喜びを表すため、願いをかなえるために神を呼び出すため、邪気を祓うためといわれる。

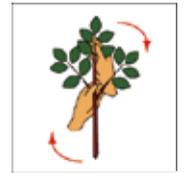
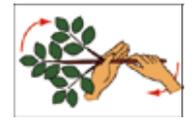
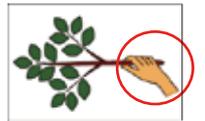
また、凶事や悲しみを表す行事においては音を出さない作法もあり、この場合は、音を出さないのは故人の霊を祓ってしまわないためなどと説明される。

- 1 最初に、両手をピッタシ合わせます。
- 2 次に右手の指先を少し摺り下げます。
この摺り下げるといのは、神様の前で謹みの意味があります。
また、ずらす理由としては、「音を良くする」他に「不浄の手と合わせない」がある。
左手指股に右手指先をあてるように打つと良い音になるといわれるが、大きな音をたてることは慎みを欠きはしたないとも言われている。
- 3 指の関節二つ分ほどずれた場所のままで二回たたきます。
その際に、いい音を出したかったら、わかるかわからないほどのほんの少しだけ手のひらを内側へ丸めると、空気のためた音が響きます。
- 4 拍手を二回たたき終わったら、摺り下げた右手を摺り上げて、両手をそろえます。

【玉串奉奠の方法（たまぐしほうてんのやり方、順番）】

神職または巫女さんから玉串を受け取る時は、右手で榊の根元を上手から持ち、左手を下から添えます。

- 1 祭壇の前に進み、姿勢を正し、一礼します。
- 2 玉串を右に回転させ、手前に根元を持ってきます。
- 3 玉串が縦の向きになったら、右手だけを図の向こうにずらします。
- 4 右手を右方向に動かし、玉串を再び回転させ、根元を祭壇の方に向けます。
- 5 玉串を祭壇に捧げます（神に捧げます）。
- 6 一歩下がって、もう一度姿勢を正します。
- 7 二拝二拍手一拝の作法で拝礼を行います。
[二拝二拍手一拝、二礼二拍手一礼の作法]
(1) 二回、90度の礼をします。
(2) 胸の前で二回、拍手をします。
(3) 最後に一度、一回、90度の礼をします。
- 8 元の位置に戻ります。



玉 串

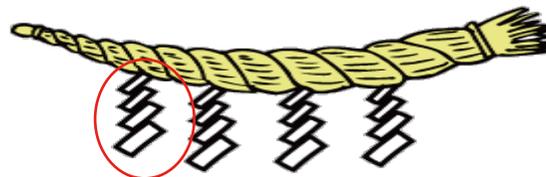
榊（さかき）の枝に紙垂（しで）をつけたものです。



紙 垂（しで）

注連縄（しめなわ）に紙で作った飾り付けのもの。

注連縄と紙垂は、ここからが神様に近い、神聖で清浄なところであることを示しています。



注連縄
（しめなわ）

一方が太く、もう一方が細くなっています。太い方が「元」細い方が「末」となります。

一般的には神社や家庭では太い方を向かって右に細い方を向かって左にします。

但し、神社や地域によっては、これとは反対の向きにすることもあります。

古くからそのようにされていた場合は、その土地ではそれが伝統であり間違いではありません。

また、縄のない方は「左ない」が一般的ですが、神社・地方の習慣によっては「右ない」と「左ない」を抱き合わせたものなどもあるようです。

包みの表書き

金封の表書き神社の祭りへのお供えは初穂料（はつほりょう）
又は玉串料（たまぐしりょう）と書きます。

初穂料……各種祝い儀式（七五三、お宮参り）、結婚式、各祈祷、厄払い
地鎮祭などの際に神社に納める謝礼として金銭を渡す際の
表書きに用います。

初穂料とは神社に納める金銭のこと全てを指します。

玉串料……通夜際、葬儀（葬場祭）、各種祝い儀式（七五三、お宮参り）
結婚式、各祈祷、厄払いの際に神社に納める謝礼として
金銭を渡す際の表書きに用います。

- 神式の葬儀（葬場祭）の際に、参列者が持参する香典の表書きには
「御玉串料」「御神前」「御柩料」「御霊前」などです。



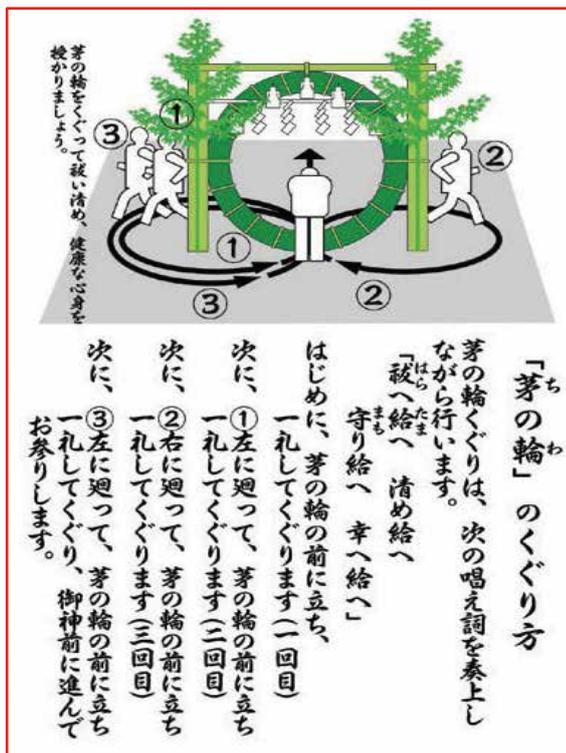
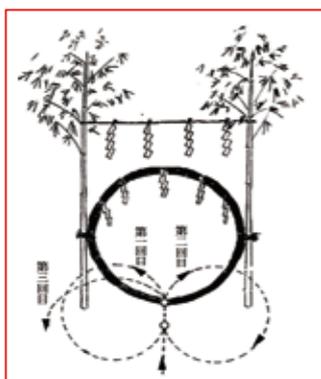
表書きは「御初穂料」「御玉串料」「御礼」「御神饌料」などです。

輪くぐり

半年間に溜まった病と穢れを落とし残りの半年を無事に過ごせることを願うというものである。

なお、茅の輪の"茅"を引き抜き持ち帰ってお守りとする俗信がある。しかし、本来は茅の輪をくぐった人たちの罪や穢れ・災厄が茅に遷されており茅を持ち帰ることは他人の災厄を自宅に持ち帰ることになるので（茅の輪のカヤを抜いて持ち帰るのは）避けるべきであると戒めている。

茅の輪くぐりの作法やくぐり方



- 1 先ず、茅の輪の前に立って軽く礼をします。左足 からまたいで輪をくぐり、左回りに回って元の位置に戻ります。
- 2 茅の輪の前で軽く礼をします。右足から またいで輪をくぐり、右回りに回って元の位置に戻ります
- 3 茅の輪の前で軽く礼をします。左足から またいで輪をくぐり、左回りに回って元の位置に戻ります。
- 4 茅の輪の前で軽く礼をします。左足から またいで輪をくぐり、ご神前まで進みます。二拝二拍手一拝の作法でお詣りします。

人形代(ひとかたしろ)

日々の生活の中で、知らず知らずの内に、心身についた罪ヶガレをこの人形代に託して穢い清め、無病息災をお祈りするものです。氏名・生年月日・年齢を書いて、身体の罪ヶガレを拭き取るようになで息を三回吹きかけます。



小川八幡宮での人形代の祈禱料は基本千円としている。



①本 殿：春日造、銅板葺き

千木、堅魚木を大棟に載せ正面向拜の上に千鳥は破風を設けていて対称の美を見せる。向拜の軒に飛ぶ鳳凰を懸け、その奥は普通、大瓶束のある所に鶴と瑞雲（めでたい雲）を下の臺段に亀と波の彫り物を置いている。建物は正面が三間（柱が四本柱間が三つ）側面が二間身舎の周りに擬宝珠高欄を設け、その奥に脇障子。東側の脇障子は勸進帳を広げる弁慶、西側には河内山宗俊を浮き彫りにしている。

②幣 殿：入母屋造（八幡造）、本瓦葺き

祭儀を行い、幣帛を奉る社殿である。本殿と拝殿との間に位置し両者をつなぐような構造になっているのが特徴である。中殿ともいう。幣殿が独立していることもある。また、拝殿と一体になっている幣殿もある。幣殿がない神社もある。

③拝 殿：入母屋造（八幡造）、本瓦葺き

祭祀・拝礼を行なうための社殿。

④稲荷大明神（お稲荷様）

⑤金間良大権現（金摩羅様）カナマラサマ

⑥隨身門（ずいじんもん）

門左大神（矢大神）と右大神の神像が安置される。日本の神道において、神を守る者として安置される隨身姿の像のことも「隨身」といい、この場合は随神とも書かれる。門守神（かどもりのかみ）看督長（かどのおさ）、矢大神・左大神とも言う。神社の門のうち、門の左右に隨身を安置した門のことを「隨身門」と呼ぶ。

⑦枝 宮（境内神社）

- 今宮・若宮一本宮の祭神と縁故の深い神又は子を祀った祠。
- 皇大神宮一天照大御神を祀った祠。
- 天神宮一天津神（あまつかみ）を祀った祠。
- 他の祠については祭神不明。

⑧燈 籠

大鳥居の前、向かって右のものに、中塚文吉ほか一名、左のものに岡田屋久吉ほか五名の名と建立の「安政二乙卯天八月十又五日」を彫っている。

（1855年）

境内の東は「常夜燈 氏子中」の銘

西は「昭和十八年一月吉日 石川武五郎建之」の銘

⑨百 度 石

ここから拝殿まで往復百回のお参りをする標識。

大豆百粒を持ってきて数えたという。

⑩狛 犬（こまいぬ）（守護獣）

仁王像と同様、向かって右側の獅子像が「阿形（あぎょう）」で口を開いており〔眷属の石造〕左側の狛犬像が「吽形（うんぎょう）」で口を閉じていて古くは角を持っていた。

昭和時代以降に作られた物は左右ともに角が無い物が多く、口の開き方以外に外見上の差異がなくなっている。これらは本来「獅子」と呼ぶべきものであるが、今日では両方の像を合わせて「狛犬」と称することが多い。また、唐獅子と狛犬の違いは唐獅子は獅子頭や胴体などに巻き毛をもち狛犬はまき毛をもたない。

社殿等配置図



紋について

巴 紋

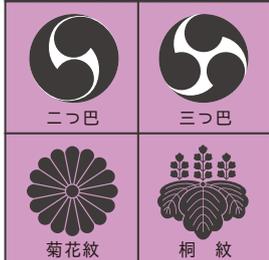
武神である八幡神の神紋として巴紋（特に三つ巴）が用いられるようになる。巴紋の回転方向がバラバラであることを示して、本来「巴」における左右の意味は、二つ巴の大太鼓（右側）と三つ巴の大太鼓（左側）を据える位置を示すものに過ぎず、その回転方向を示してはいないとし、当時は三つ巴はどの方向に回転していても左巴であり、二つ巴も同様に回転にかかわらず右巴と呼んでいたのではないかと論じている。

菊 花 紋

八重菊を圖案化した日本の天皇および皇室を表す紋章である。16の花弁があるのなら「十六菊」と呼ぶ。1879年（明治12年）5月22日の太政官達第23号で、一般の社寺でも神殿・仏堂の装飾として使用することが許されている。

桐 紋

日本国政府の紋章。花序につく花の数が5-7-5となっているものは五七桐（ごしちのまり・ごしちぎり）という。当初は菊紋章とともに皇室専用の家紋であったが、後に皇室以外の戦国大名などの諸侯も用いるようになり、皇室は専ら菊紋章のみを用いるようになった。大日本帝国憲法憲政下の政府は皇室の菊紋章を多用したが日本国憲法憲政下の日本政府（内閣総理大臣・内閣）は桐紋章を用いている。





本殿



稲荷大明神



隨身門



矢(右)大神



左大神



金間良大権現 (金摩羅様)



百度石



末社



今宮・若宮



天満宮



狛犬像・獅子像 : 昭和九年四月建立 氏子中 願主岡野庄蔵ほか七名 建立「元治改元甲子」(1864年)

祭日

- 1 元旦祭【歳の初めに氏子と地域の一年間の守護を祈願する行事】
- 2 お日待祭【庚申の日に神仏を祀って徹夜してこもり明かし日の出を拝む行事】
- 3 初卯祭【立春後の最初の卯の日に八幡神(=応神天皇)の誕生を祝う祭り】
- 4 春祭【悪疫をはらい、その年の豊作や世の中の幸福を祈る春の祭り】
- 5 夏祭【輪くぐりにおいて疫病退散や厄除けを行う祭り】
- 6 秋季例大祭【収穫を感謝する祭り】
神行祭の渡御列には御神輿に奴(やっこ)・千歳楽(せんざいらく)
山車(だし・だんじり)が随行する。
- 7 二番祭【古くから庶民が行ってきた神棚祭またの名を宅神祭(たくじんさい)】

小川八幡宮

現住所：倉敷市児島小川2丁目2番28号(本籍の児島小川二丁目3257番地に社殿を置く)

御祭神：仲哀天皇(ちゅうあいてんのう)ー皇紀852年(西暦192年)～(足仲彦尊タカシナカツヒコノミコト)
神功皇后摂政(じんぐうこうごうせっしょう)ー皇紀861年～(息長帯姫尊また気長足姫尊オキナガタラシヒメノミコト)

應神天皇(おうじんてんのう)ー皇紀930年～(誉田別尊ホンダワケノミコト)

⑨神武天皇即位紀元の元年は神武天皇(日本の初代天皇)が即位したといわれる年(紀元前660年)を元年(皇紀)とする。(キリスト紀元(西暦)に換算して紀元前660年とされている)

例：平成27年(西暦2015年→皇紀2675年)八幡神社の神使『鳩』

YouTube チャンネル



Instagram

